

## エリア規模の違いからみた観光による地域振興に関する研究

田代, 雅彦

<https://hdl.handle.net/2324/1806800>

---

出版情報：九州大学, 2016, 博士（経済学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2, 3)

氏名	田代雅彦			
論文名	エリア規模の違いからみた観光による地域振興に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	山本健児
	副査	九州大学	教授	久野国夫
	副査	九州大学	教授	深川博史

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、多くの我が国地方自治体によって地域振興の手段として期待されている観光が、どのような条件のもとで有効になるのかという問題を考察したものである。その際に、日本国内の観光地域に関する先行研究に欠如する視点、即ち問題とする地域のスケールにより、観光主体、観光対象、この両者をつなぐ媒介機能という、観光の3要素の重要性が変わる、という本論文独自の視点が提示されている。

事例として小スケール地域の長崎県小値賀町、中スケール地域の福岡市、大スケール地域の九州が取りあげられ、キーパーソンへのインタビューと記録資料の収集を含む現地調査、各所に散在する情報の丹念な収集とその総合的解釈、参与観察等の調査方法が駆使されている。

特段の観光資源がなかった離島の小値賀町では、離島生活体験を観光資源と捉えたIターン者の活動と町民の協力の成果がグリーンツーリズム関連の各種受賞につながり、その報道が更なる観光客の来訪へと結実した。かつて観光都市でなかった福岡市は、国や民間企業の施策による広域交通結節点化と、アジア諸都市との連携が相乗効果を発揮して、日本有数の観光都市となった。九州全体としての観光による地域振興については、九州7県の代表のみならず観光に関わる多様な民間企業の代表で構成される「九州観光戦略委員会」での厳しい議論を経て、「九州観光推進機構」という広域スケールでの実務組織が設立された。

以上、スケールを異にする3つの地域での観光による地域振興のプロセスを、具体的に定性的に明らかにしたことが、本論文の最大の意義である、それを踏まえて、リーダーシップを発揮する人物の存在という異なる地域スケールの間での共通点への指摘に加えて、地域振興政策を成功に導くための力点を置くべき観光要素は地域スケールにより異なることを明らかにしたことが、既存研究にない本論文の貢献である。今後、大中スケール地域での観光による地域振興と小スケール地域での動きとの関係についての研究や、観光による地域振興が成果を挙げていない場合の研究が期待される。

以上の調査結果から、本論文調査会は、田代雅彦氏より提出された論文「エリア規模の違いからみた観光による地域振興に関する研究」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。